

林 大 だ よ り



第 64 号 平成 24 年 10 月 31 日

長野県林業大学校翌校友会



2 学 年 オーストリア研修 (ウィーン・シェーンブルン宮殿)



1 学 年 御嶽山登山 (山頂)



2 学 年 高性能林業機械研修

子供の成長と共に

翌松会会長 松尾 隆



今年の夏は、例年になく暑い日が続いていましたが、彼岸が過ぎて朝晩肌寒さが感じられるようになり、秋の気配がしてきました。

翌松会の会長という役をいただき、昨年までは妻に副会長を任せて林業大学校の事に目も向けていなかった訳ですが、会長の役になり考え振り返ってみると、自分は子供が保育園に入園してから今まで保護者の役を全部妻に任せてきてしまったと思いました。保護者としての最後の役は自分かと思うようになってから、色々考えるようになってきました。

息子が入学して全寮制で校長先生をはじめ教職員、舎監さん、寮母さんに何から何まで見守っていただきありがとうございました。

そして、息子も団体生活の中で色々な経験をして、人間関係でも高校の時とは違った大人としての会話、考え方が身に付いてきたような気がします。また、林業大学校の授業では、研修等を通じて視野が広がり、これからの人生のヒントになっていくと思います。

そして、社会状況は不安定で就職するのも難しい中で、子供達は林業大学校を選び、これからの人生を切り開こうとしているこの時期に、翌松会を通じて先生方に指導をいただきながら、僕ら保護者も一生懸命見守っていきたいと思っています。会長として未熟ではありますが、最後まで役目を務めてまいりますので、ご協力お願い致します。

笑顔で「オフィシャル」を受け入れよう

長野県林業大学校長 中村 慎



林大には、学生たちが趣味やスポーツを共にするいくつかのクラブがある。中でも、ソフトボール部やサッカー部はとても活発なクラブだ。九月二十六日、そんな彼らにちよっとしたピンチが襲った。たまたまその日は、ナイ

ターソフトボールとサッカーリーグの試合日が重なり、それぞれの試合に二名ずつの審判員を出さねばならなくなった。しかも、二年生は二泊三日の研修に出かけ、「Aコープきそ店」などのアルバイトも含め、全一年生で賄ねばならない。心配しながら一年生の様子を見てみると、みんな協力し合って、アルバイトのほうも、ソフトボールやサッカーの審判のほうも、無事その責任を果たしてくれ

た。部員でもなく、その経験もないのに、サッカーの線審を引き受けたF君の態度には特に心を打たれた。

実は、こう見えても、私もいわゆる「体育会系」人間で、中学・高校時代にはサッカー、大学時代にはアイスホッケーに熱中していた。しかし、当時の私は、自身のプレーやチームの勝敗のことしか考えず、競技運営のことには全く無頓着だった。役員の方々の苦労などつゆ知らず、時には「このヘボ審判」などと罵声を浴びせることまであった。今、思えば、競技役員への感謝の気持ちが著しく欠けていた選手だった。

そんな私が、社会人になっても競技を続ける中で、競技運営に対する考えが一変した。当時はまだアイスホッケーチームが少なく、選手自らが試合の企画や運営をしなければ誰もやってくれない。そんな経験を通じて、それまで如何に多くの方々を支えられていたのかを初めて自覚した。それ以来、学生時代の自分を恥じ、お世話になった方々への恩返しのために、率先して競技役員を務め、ずっと競技団体の運営にも携わっ

ている。

九月三十日には第二十回木曽福島駅伝大会が行われ、本校Aチームは通算五度目の優勝を遂げた。実は、この大会、四チーム二十四名の選手の間、大会役員や応援、給水・救護などに学生・教職員総出で取り組んでいる。勉強やアルバイト、寮祭準備等に忙しい中、地道に練習を重ねた選手たちにエールを送ると同時に、競技役員を務めた十名の学生たちにも心から敬意を表したい。

アイスホッケーなどでは、競技役員のことを「オフィシャル」と呼んでいる。英和辞典でオフィシャルを引いてみると、競技役員のほかに、公務員とか「公の、公務の、正式の」という意味もある。考えてみれば、地域の自治会活動も競技役員と同じく、果さねばならない義務のひとつだ。学生諸君には、自分自身の人生を思い切りエンジョイしながらも、スポーツや自治会活動の「オフィシャル」を笑顔で受け入れられる人になってもらいたい。きっと思わぬ出会いが得られることだらう。

主体性を育てよう

信州大学農学部 教授 植木 達人



県林業大学校にて教鞭をとるようになって、かれこれ十数年になるうか。個性豊かな林大生との向き合い方や講義法も試行錯誤を繰り返して、やっと板についてきたように思う。受身的な「教わる」姿勢から自ら「学ぶ」意識を植え付けようと試み、それによつて授業に臨む学生の眼の色も少しは変わったかなと感じているが、果たして…。

さて、決して人生の何たるかを自得したわけではないのだけれど、ここではこれから長い人生を歩む学生達への寸言としてお聞き願いたい。私も五十（歳）の半ばに至つてつくづく思うことは、自然や社会は常に千変万化し、学ぶべき知識は底知れず膨大であり、加えて様々な性格の人間がいて、その付き合い方が

難しいということ。今なお人生の捌き方に私自身が戸惑っている。それでも人生の節目／＼で獲得しなければならぬ術があるのだと思う。特に二十代においては、多少の遠回りは気にせず、これだ！と思うことを徹底的にやってみること。信じるころ、熱い胸騒ぎがするところにとどんでん「挑戦」して欲しいと願う。失敗はその後の人生においていくらでもリカバーできる。大事な点は、挑戦は「主体性」を育てるということ。この主体性の獲得は、たぶん自分自身を客観視することから始まるのだと思う。冷静な自分への問いかけや「科学的」自己分析が、己の正体を暴き、進むべき方向性を明らかにさせる。「思惟」とでもいうべきか。少ない経験であっても、そこから学び得た事実を比較・検討し、それらの関係性を見定め、それを踏まえてまだ経験しない先に至り着こう（先見性、洞察力）とする精神的作

用。新たな発見、前進・改善はこうした思惟によつて生まれる。

挑戦と思惟を繰り返すことによつて主体性が育まれる。

人生の要訣

日野製薬株式会社
代表取締役

井原 正登



「笑う門に福来たる」ということわざがあります。これは「いかなることがあつても、笑顔で対処するように心がけていけば、福が来る」という意味です。このことわざが示すように、「自らの力で人生を動かすこと」ができるのです。

私は、大学卒業後に、外資系の日本アイ・ビー・エム株式会社社に就職しました。三十歳頃に、企画部門に配属になり、海外との折衝が必要となりました。英文の資料は読めますが、英会話の能力がなく、苦勞しました。英語力検

だから、自分を未熟だと落ち込む必要はない。失敗してもそれをプラスに転じる思惟によつて、人間としての成長を止めなければいいのだ。そして

て「自分は〇〇である」とはつきり言える社会の一員に育って欲しいと切に願う。

曾ユネスコ協会を設立して活動をしている中で、人との縁の大切さと思惟さを体験しました。今から六年くらい前に、長野県木曾地方事務所長が会社にお出でになり、「木曾丸ごと活動」のお話をされました。恐らく、私に活動の継承を託されたものだと思います。後任の所長さんが会社にお出でになった時に、私の「木曾丸ごと世界遺産構想」を話したところ、長野県の「地域発元氣作り支援金」に応募することを勧められました。この時から「木曾丸ごと夢作り活動」が始まり、現在も継続しています。志を持って活動していると縁が舞い込んでくるのです。

定試験のTOEICを最初に受験した時は、四〇〇点台だったと思います。会社の規定では、海外出張はTOEIC六〇〇点以上、赴任は七二〇点以上が必要です。英会話に必死に取り組み何とか六〇〇点以上を取り、海外出張をすることができました。一九九二年に、ある製品の責任者としてアメリカに赴任することとを打診された時には、集中的に英語学習をして何とか七二〇点以上取つて、赴任しました。当初は苦勞しましたが、次第に会話力が向上し、何とか職責を果たすことができました。

このように自分できちんと決めたことは、あらゆる工夫をして実現してきました。

次に大切なことは「人との縁」です。木曾に戻つて、木

現代は、多様性の時代であり、価値感も人によつて様々ですが、人生には二つの大切なことがあることを感じ取っていたできれば幸いです。

学生の
ページあす
なるの
呟

つぶやき

学 校 ・ 寮 生 活 か ら

みんなの笑顔に
会いに来た1 学年
飯島 歩美

高校の時、私はオープンキャンパスに二回参加し、木

望祭は一回参加しました。オープンキャンパスの時に先輩と知り合い、私の夢のことも考え、高二の夏に林大を受験すると決めました。全寮制なので不安もたくさんありましたが、入寮日にその不安は一気に消えました。林大に入学してから、私はずっとやると決めていたソフトボール部の選手兼マネージャーになりました。

した。高校時代に野球部のマネージャーをやっていた経験を活かしたかったし、みんながプレーしている姿を一番近くで見たいと思ったからです。入部すると週三日の練習では選手をして、試合ではスコアラーとして記録をつけています。私の原動力は、みんなの笑顔とありがとうの言葉です。



花壇草取り（林大前の国道）

二度見た桜

1 学年
勝本 岳史

高校を卒業し、林大に来て早くも半年が過ぎました。親元を離れ新しい環境での生活に不安はあったものの、先輩たちの明るさで今日まで過ごしてきました。

長野県に来たときは、まだ風が冷たく雪も吹雪いていました。九州では桜はとうに開花しているというのにこちらでは小さい蕾でした。林業とこれから未来永劫付き合っていくと決心して入ったこの林大。最近では林大で学び、卒業した後の進路について考えることも多くなってきました。進学をしようと考え入ってきたものの、インターンシップで林業という仕事に初めて触れ合えたとき私の中には就職という考えも浮かんできました。もう既に半年という月日が流れていることを自覚し、自分にとって後悔のない進路に進んでいきたいと思

いました。また、高校時代は自ら進んで何かをするということはなかったのですが、これからはボランティアだけでなく自分から積極的に様々なことにチャレンジしていこうと思います。

リンダ！
リンダ！林大！1 学年
城内 優希

真新しい、自分よりも大きな、ピカピカのランドセルを背負い、小学校に入学したあの日から、約十三年が経ち、私は半年前、この長野県林業大学校に入学した。初め

て学校というものの校門をくぐってから、もう約十三年が経つのだ。そして私は今、人生最後の学校生活を満喫している。小学生の頃は、まだ自分が、このような道に進むとは思っていなかった。しかし今、自分はこの両足で、壮大な自然の中に立ち、光合成をしているかのような気分が長野県林業大学校にいる。「どうした自分。」私に葉緑体などない。いつも自分は人間だということを再確認するのがやっと思いだ。私はここで



1 学年 県植樹祭（野沢温泉村）

頑張っていくよ。いつしか立派な林業男子になり、活躍する日を夢みて。

楽しみな林大生活



1 学年
長瀬 敬明

林大に入学して、似通った

進路を目指す十九人の同期と二十人の先輩に出会った。彼らは皆それぞれに個性的な知識や興味を持ち、初めて教えられることが沢山あった。教えられるだけでなく、触発を受けることで、実際に挑戦する機会も多くなってきた。その結果、将来的に役立つ貴重な経験を様々なレベルで積み、新たな進路像を描くきっかけになることもあった。元々、考えてから行動に移すまでに時間がかかる自分にとっ



寮生活（食事風景）

て、これは本当にありがたいことで、この先何らかの形で返せればと思う。また、県内での就職を目指す以上、ここで出会った仲間の中には、長い付き合いになる者もいるだろう。その繋がりを大切に、お互いに良い影響を与え合えるような関係を築いていきたい。今後の林大生活では、どのような新しい出来事に触れられるのだろう。とても楽しみである。

1 学年 特別研修（鉋削りと刃物の研ぎ方）



夢を見つけない



1 学年
山川 隼平

林大に入ってから半年が過ぎました。入学して寮に入ってきた当初、私はとても緊張していて、この学校でうまくやっていけるかとても心配でし

た。けれども、先輩方はとても親切で、また同じく入学してきた同級生たちは私にとっても親しくしてくれて、すぐに林業大学校に慣れることができました。

私は未だに林業の何をやりたいか決まっておらず、この半年間とりあえず何か林業をやろうという気持ちでいました。しかし、そんな私と違い、他の林大のみんなはそれぞれ個々の夢を持って生活をしていました。ただ何となく

この学校で林業の勉強をしている自分が恥ずかしくなっていました。なので、自分も何か夢を見つけて頑張ろうと思い、この半年間いろいろと探しました。まだまだ見つからずにいますが、二年生になるまでのあと半年間は普段の授業を含めていろいろなことにチャレンジし、何か夢を見つかるよう、これからの学校生活を楽しみながら生活をしていきたいです。



1 学年 炭焼き実習（県林業総合センター）

卒業までに
取り組みたいこと



2 学年
梶田 佳祐

間、林大での実習や講義を経て得られるものが多いが、それ以外に自分の売りとしていく得意分野を伸ばしていきたいと思っている。それはパソコンを活用した分野だ。これは昔から興味があり取り組んできたものだが、実際に職場で役に立つことを身につけたと思っています。林大の講義

ではGISやプレゼンテーションなどがあるが、そのほかにもウェブページの管理や伝票処理など様々なことがある。野外の現場で動けるようになることも勿論だが、自分の得意分野を活かした働きができるよう、卒業するまでに取り組んでいきたいと思っています。

林大で学んだこと



2 学年
小山 祐樹

私が林業大学校に入學して、もう一年と半年が過ぎました。この一年半が過ぎるのは、私にとつてとても早かったです。特に二年になってからは、インターンシップや

があるかもしれませんが、楽しく、誇りを持って働きたいと思っています。

他にも、寮生活を通して、目上の方と接するときの態度や共同生活のマナーも学びました。そういったものは、今後働く中で必ず必要になると思います。だから、残り半年、もっと知識と技術を養い、最後の学校生活を楽しくしていきたいです。



2 学年
須藤 康介

残りの時間を
楽しんで

学生生活の残された日々も半年を切り、就職活動に取り組む日々が続いている。就職希望である自分はある数ヶ月で嫌でも学生という立場を終えることになるため、この数ヶ月を何に使うかはとても重要なことであり、学生生活十四年の総まとめの期間となる。自分はこの残り少ない日々を様々な技術の向上に使用したいと思っています。



2 学年 オーストリア研修 (チロル州・亜高山性樹木養苗圃場)

そんな林大での生活の中では、仕事は楽しくやるということです。私が実習やイン

去年から始まった林大の生活も、あと半年となりました。私も、進路を決めるとても大事な時期を迎えています。学生である以上、勉強を



2 学年 森林保護学実習 (佐久穂町)

することが第一であり、進路を決定することが大事だと思います。

そんな中、私が最近感じていることは、友達との時間を大切にしたいことです。この学校で出会えた友達と一緒に居られる時間は、残りわずかです。私自身の進路によって、もう会うことができません。

二年女子の みなさん



2学年
常盤あやめ

林大での生活も残り半年となりました。寮生活では家族の大切さを改めて実感し、それと同時に林大の仲間の大切さを感じています。

誕生日パーティを開いてみんなでお祝いしたり、週二回の太鼓の稽古で遅く帰ってくると私の分の夕飯を部屋に用意してくれたり、洗濯ものを乾燥機から出しておいてくれたり（しかも畳んである）、部屋の虫を駆除してもらったなど、特に女子のみんなに

なる人ばかりです。そんな友達との時間は、決して無駄にはしたくありません。

卒業まで残り半年です。この学校で出会えた、たくさんの仲間たちと笑って卒業できるといいなと思います。その為にも、短い時間を色濃く、そして大切にしていきたいです。

は優しくして頂いて快適な寮生活を送っています。

ずっと同じ環境で生活しているからこ

そ、こんなにも

仲良くなれたの

かなと思います

す。そんなみんな

などの生活もある

と半年で終わりを

を迎え、それぞれ

が新しい道へ向か

っていきま

す。それでも

時々五人で集

まって、旅行に

行ったりして

ずっと仲良しで

いられたらいい

なと思います。

残りの林大生活

も思いっきり楽

しみましょう！



2学年 保健休養学実習（県林業総合センター）

卒業までに できること



2学年
湯之上和正

林大を卒業するまであと数カ月になりました。最初入学したばかりのときは、初めて親の元から離れて生活する不安や寮生活という他の人と

一緒に生活することなど、とてもたくさん不安がありました。入学して高校とは違い、知らない人ばかりで、先輩や他の同級生と話したり生活していったりすることができかなど、さらに不安になったこともありました。同じ部屋だった松尾君が話しかけてくれたり、先輩方も話しかけてくれ、だんだんと周りの同級生とも話せるようになって、今では楽しく生活しています。先輩方が卒業した後輩も入ってきて、今は自分たちが先輩になりました。先輩方がたくさんいることを自分たちに教えてくださったみたいに、卒業までに自分が教えてあげられることを少しでも教えてあげられるようにしたいです。



2学年 木材加工学実習（県林業総合センター）



2学年 林道工学実習（根羽村）

保護者の
ページ絵
の
一
言

人として

大鳥 光晴



早いもので、林大に入学して、六ヶ月が過ぎ、寮や学校の勉強にもなれた頃だと思う。

「俺、林大に行く。」「林業について、もっと勉強したい。」と言った高三の秋。高校を農業高校に行きたいと言われた時もびつくりしたけれど、「今度は林業？」と思いました。何を考え、何を目指しているのかと思いながら無知な親は、資料を送っていただけ勉強。

息子の考えはよくわかりませんが、なんとなく環境を考えたり、自然の大切さを思っているのかなと…。

我が息子は、見た目は今

風、いわゆるチャラ男に見える様ですが、先輩方にやさしくしていただいて、寮生活が楽しい様です。

実習でも、楽しく勉強をさせていたでいて、心から感謝しております。

この六ヶ月間で、たくさんの方々に出会えたことに感謝し、長野の大自然の中でたくさんさんの事を学んでほしいものです。好きな事、やりたいと

夢に向かって

高津 晶子



早いもので、今年の四月に林業大学校に入学してから、もう半年が過ぎようとしています。いつもお世話になっている先生方、同級生の方、寮母さんに御礼を申し上げます。

思った職業につける人はめったにいないから、努力は必要。息子よ、夢と希望に向かって直進あるのみ。人に感謝を忘れず、だれかのために働ける様に勉強してほしいものです。

す。

一昨年の冬頃に「やりたい事が見つかったから、長野県の林業大学校に行つて、いずれは林業関係の仕事がしたい。」と話をされました。小さい頃から父親と一緒に山登りをしたり、家族でキャンプや川遊びに行ったりと山に親しんできたので、自然と山が好きになったんだなあと感じました。とは言え、親元を離れて生活するのは初めての事なので、いろいろと心配はしていますが、何とかやっているみたいです。まだ一度も学校へ行つた事がないので家



2 学年 樹木医学実習（阿智村）

息子へ

野中 純一



早いもので、林業大学校に入学して半年が過ぎようとしています。息子を見送る時、「果たして大丈夫だろうか?」と思いましたが、親の心配をよそに日々成長している様に感じます。全寮制という貴重な体験が後の糧となる事でしょう。昨年の東日本大震災を経験し、よく「絆」という言葉を目にします。同じ仲間と出会い、共に学び、共同生活を通じ絆を深め頑張り抜いて下さい。

自分の人生なのでこれから、後悔しない選択、そして夢を現実出来る知恵、知識、経験を積み、卒業を迎えて欲しいと思います。



保護者として

藤沢 嘉信



息子が林業大学校に入り早くも半年が過ぎました。林大に入りいろいろなことを学び、研修旅行やその他貴重な体験をして、息子も一回り大きくなった様に思います。この先、一年生にとつてあと半年、いろいろと学ぶことがあると思いますが、頑張ってもらいたいと願っています。これから二年生になるにあたり、勉強や研修が続くと思いますが、へこたれず一つ一つ乗り越えていってほしいと願うばかりです。

林大がある木曽地方は、雪が多く寒い所ですが、厳しい環境下で風邪や病気に負けずに、頑張つてほしいと親として思います。

これから本格的に寒くなりますが、雪の中、山に立ち入ることもあると思います。県

外から来ている生徒達は、木曽という慣れない土地でも、是非一生懸命頑張ってください。

光の束

飯田 智子



「ここや！私が行きたい所。やつと見つけた！」娘の晴花が明るく弾んだ声をあげ、指差した先のパソコン画面には「長野県林業大学校」とありました。進路に悩み、深い闇の中をさまよっていた娘の前に、一筋の光が差した瞬間でした。

熱心にご指導くださる先生方、親身にお世話してくださる職員の皆様、そして温かく頼りがいのある先輩方と気のいい仲間達。

娘が「私はこういうことに興味があります。」と発信すれば、周りの方々が声をかけてくださり、いろいろな方

からお話をうかがい、将来についての考えを深められるような体験もさせていただきました。

恵まれた環境の中で、娘はより具体的に進みたい道を見つけることができました。たくさんのご縁があつて、一筋の光が幾筋も集まり、明るい光の束になったのです。

導き支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、少しずつ未来へと歩んでいってくださることを心から願っています。

地球を救え！

林大生！

岸田 文恵



入学直前、三・一一大震災。連日報道される家族を失った方々の悲痛な思い…。同じ県内とはいえ、離れて暮らすことへの不安。その後も

2学年

森林組合地区懇談会

(木曽町)



相次いで発生する大きな自然災害に人は呆然とし、自然の驚異を思い知らされています。そんな自然を相手にしている林業という世界を学ぶ為に集まってきた仲間達。共同生活や多くの実習を重ねていく中で、きつと都会へ行った友人達とはまたひと味違うことを学べていると思います。例えば夏休み、庭木の剪定をお願いしたところ見事な枝打ち。「さすが！」の一言でした。枝打ちもありがたかったのですが、他の人を思いやる

気持ち、協調性、地域の方々とのふれあい。きつと社会に出てから役に立つことばかりでしょう。先輩方に教わったそれらのことを後輩に引継ぎ、林大らしさを繋げていくて欲しいと思います。

先にも言った異常気象による自然災害の一つの要因である地球温暖化に対する森林の必要性。皆さん！百年後二百年後の地球の為に頑張ってください。

そして、多くの皆さんのおかげで息子の今の楽しい生活が送れていることに感謝しております。ありがとうございます。

日々成長

菅井 光弘



多少の不安を抱えながらの笑顔で私達を見送る娘を林大に残し、帰路に着いた入学式の日から早、一年半が経とう

としています。不安だらけの親を尻目にあつという間に長野に馴染んだ娘に驚きを感じつつ、只々無事と成長を遠い地から願う毎日でした。

この時間や素晴らしい環境が私達親子を成長させてくれたと感謝の思いで一杯です。これからも感謝と謙虚を忘れないように。感謝の心があれば人と支え合うことが出来ま

す。謙虚な心があればいくつ

今、新たな人生の岐路に立っていますが、どの選択が正しいかは今考えても答えが出るものではありません。何故ならその答えはこの先、君がつくるものだからです。

これからも親として精一杯のアドバイスとサポートをしたいと思っています。

11年間

外柳 克子



入学してはや一年半がたち、卒業に向けて一生懸命勉強しているようです。「疲れたー」といいながらも頑張っているようです。

一年半前は、あまりに遠くてためらいもありましたが、本人は専門の勉強をしたいという気持ちから「遠いよ?」、「どうしても行きたい」との

思 い

高柳 博子



会話から行くことになりましたが、心配で心配でいつ電話が鳴るのかとハラハラしながら仕事していたことを思い出します。

学校のこと、友達のことをいろいろ話してくれ、手に取るようにわかり安心していきます。家に帰るたび成長しているのうれしく思い、林大に入学出来て本当に良かったと思っています。

本人の体のことを考えると近くで仕事が見つかればと思いますが…。とにかく自分がやりたい仕事につければと思っています。

入学して、本人が関わった方々に大きく成長させていただき、本当にありがとうございます。

「林業の仕事に就きたい」と夢を語ったのが高校一年の秋。それから早四年。念願の林大に入学できたものの、親元を離れての寮生活。それに四人部屋だということではないか!三人兄弟の末っ子で、自由気ままな生活を送っていた息子、今に泣いて帰って来るのではないかとひそかに心配したものでした。でも、そんな親心をよそに、帰省するたび学校生活や寮の様子を楽ししそうに語り、たくましくなっていく姿に頼もしさを感じます。入学して間もなく行つた屋久島研修、夏の御嶽登山。二年ではオーストリアへの研修と、大変な行事もすべて楽しい思い出にできたのは先生方、寮母さんのおかげだと感謝しております。また、苦楽を共にした友人との

出会いは、一生の宝物となることでしょう。

卒業まであと残りわずか。林大で培った知識と精神力で、夢に向かって大きく羽ばたいてほしいと願っています。

林大に進学して

松島美智代



小さい頃から山が好きなきな子供でした。幼稚園の頃から日帰り登山で一緒に山に登ったりしていました。中学生の頃は山小屋の仕事をしたいと言っていましたので、林大に進みたいと言われた時は、「やはり」という感じでした。

すばらしい自然に恵まれた木曾の中の林大は、彼の性格にはぴったりのところだったと

思います。しかし、全寮制で四人部屋というのは正直大変かな?と思いました。でも、今思うと個人の関係が希薄になつてきている現代で、三食共にして生活できたことは何にも変え難い貴重な経験をさせて頂いたと思います。林大の近隣の町に就職も決まり、これからは木曾の皆さんと“木”と共に生きていくことになりました。

林大でのご指導、様々な経験、仲間との生活で得た経験を活かし、新たな出発を長野県の地で頑張っていけたらと思います。二年間ありがとうございました。



オープンキャンパス (実習棟見学)

仲間を今を
大切に第5期生
土川 哲志

この掲載を依頼されて、改めて学生生活「林大」を振り返り、懐かしさを感じながら、今学生生活を送っている後輩達に何を？と考えたとき

プラス思考で
良い習慣教授
竹内 玉来

人間には、いい行動でも悪い行動でも、「同じような行動パターンを繰り返すと習慣になる」という法則があり、特に朝の行動は、ほとんど習慣に従って無意識に行動して

檜のアドバイス

に、やはり二年間共に同じ目的で勉強し、議論し、助け合い、協力し合い、時には喧嘩をし、寮生活で寝起きを共にし、同じ釜の飯を食った「林大の仲間」の大切さを感じます。就職先は違いますが、ほとんどの仲間が林業に携わっています。社会人になつてからは、ただ二年間一緒に生活を共にした大切な仲間というだけでなく、同じ林業という壁に立ち向かえる仲間の存

在は心強いものです。同じ釜の飯を食った仲間だからこそ、本音で仕事の悩みを相談でき、情報を共有できることは強みにもなるし、助けにもなり、非常にプラスになります。その場にならないとわからないことかもしれませんが、信頼関係はこれからの人生においてかけがえのない財産になると思います。とはいっても今はまだ学生です。今しかできないことは多くあ

るでしょう。自分自身の可能性を広げるためにも、好き嫌いせず何にでも積極的にならなければなりません。違う自分を見つけないと、一日一日を送るために、一日一日を大切に過ごしてください。先生方や仲間達と共に、楽しい、そしてやりきったと思える学生生活を送ってください。今後の皆さんに期待しています。頑張ってください。

いるという「朝の習慣化法則」があるそうです。林業大では、毎朝、ラジオ体操を行ってから朝礼が始まりますが、誰もができるはずのこのラジオ体操も、ダラダラと体操をする学生と一生懸命に体操をする学生がいます。しかもそれは、朝の習慣化法則に従い、必ず毎日同じように繰り返されます。ところで、社会に出てからは「決められた基本動作」「守らなければ

ならない作業手順」だらけです。しかし、その単純な動作や手順でさえ、「その行動を自分の役に立たせるには？」「もっと上手くできないか？」と考えることができるかどうかで、少しずつ進歩・熟達していきます。

さて、ここで改めて朝のラジオ体操に対する考え方を整理してみましょう。毎朝同じラジオ体操をすることは決まっていますから、ラジオ体

操を「やらされている無意味な行動、無駄な時間」と捉えるか、「自分にとってプラスの行動や時間」にしていくかと考えるかで、ラジオ体操への取組み方は変わってくるはずです。いい方向に「自分を変えようとする意識」を持つと「プラス思考の考え方」ができるようになります。自分の「考え方」が変わると「行動」が変わることができ、そして、変わってきた自分の行動が定着すると「習慣」になります。つまり「ボ

ジティブな行動パターンの固定化」が「良い習慣」を作るのです。毎朝のラジオ体操の時間は、考え方一つで無駄な時間にも自分を磨く時間にもなります。君たちのポジティブな考え方がラジオ体操に反映されるので、まずは、朝のラジオ体操に挑む考え方から変えてみよう。



入学式



我 ら 林 大 生 !



第20回
木曽福島駅伝大会で
通算5度目の優勝



1 学年 ほお葉巻き体験
(木曽町・ふるさと体験館)

1 学年 森林土壌学実習
(県林業総合センター)



2 学年 水無神社 みこしまくり (木曽町)



県政ランチミーティング
(9月13日・阿部長野県知事が来校)

編集後記

阿部長野県知事が「県政ランチミーティング」のため、九月十三日に来校しました。この事業は、県民と知事が気軽に昼食を取りながら県政について語り合うもので、通常は参加希望団体を募って行いますが、今回は特に林大の学生をとの指名がありました。参加した学生達は、知事とどのような話をしようかと、それぞれが真剣に考え、何回も打合せをして臨んでいました。実際には打合せのとおりに話が進まなかったようですが、それぞれが考えていることを堂々と話している姿を見て、彼らを頼もしく思うとともに、事前の準備・心構えがしっかりとできているなと感じました。仕事を長年務めていると、準備をすることの大切さをつくづく感じます。社会に出て行く学生には、学校生活の中でできるだけ準備や早目の行動が習慣となるようにしてほしいと思っています。

(M)